

CP-06 とTEK p6021との比較でのテスト

低価格ながらクランプでDC電流からKHzまで見えるのは素晴らしい

上/CP-06 下/P6021

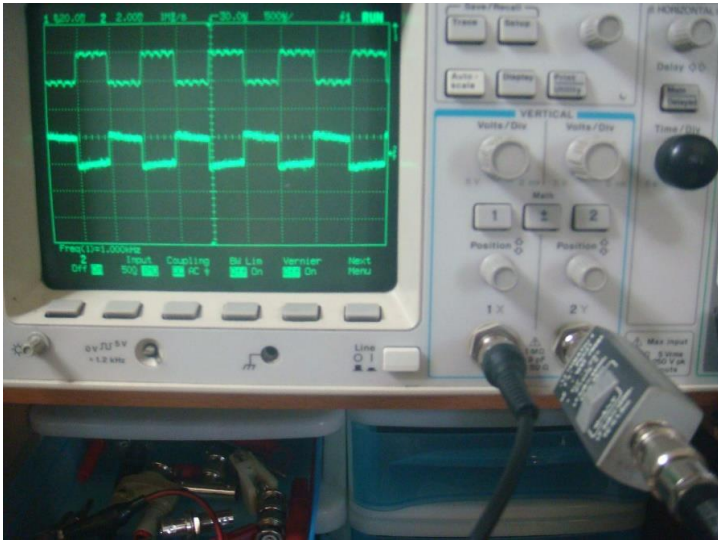
(CO-06:400mAレンジ使用)

CP-06は、DC成分表示可能な為、方形波が正常に現れる

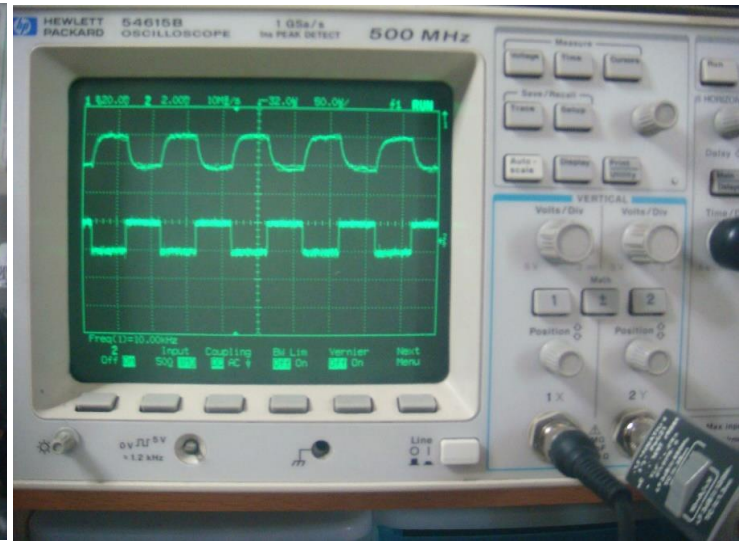
CP-06は高周波10KHz程度の帯域のためエッジが丸くなる

P6021はAC成分のみの表示(両p-p値は同じ)

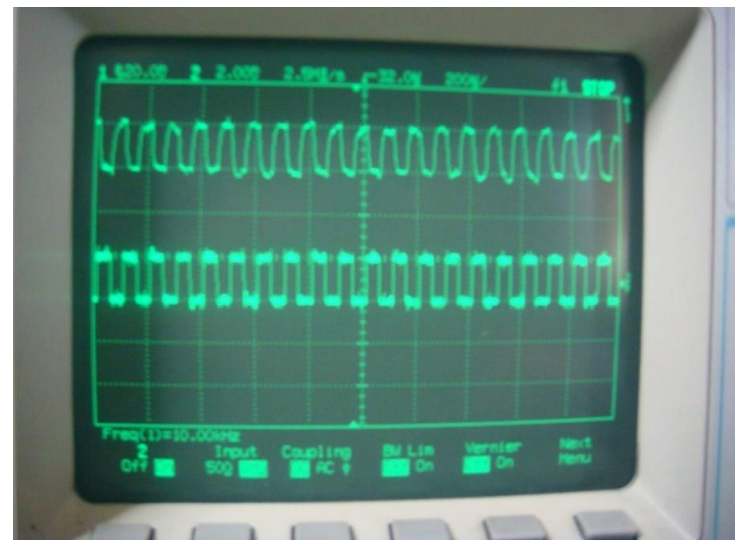
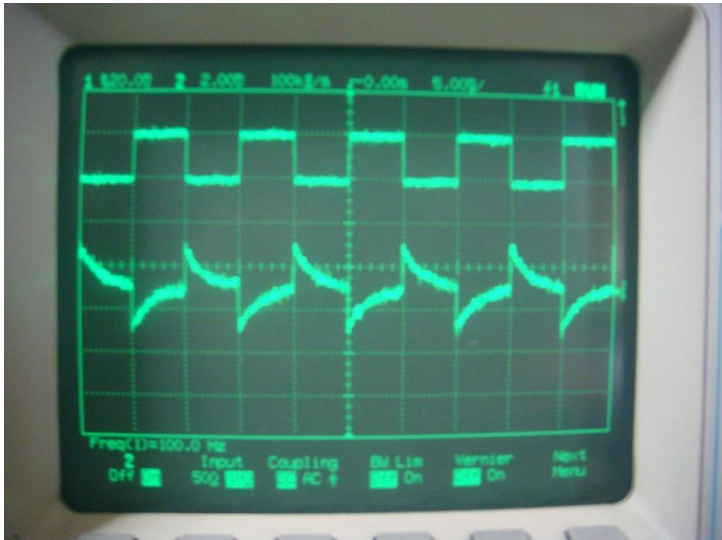
P6021は高周波は通り易いので、正常な過渡が出る



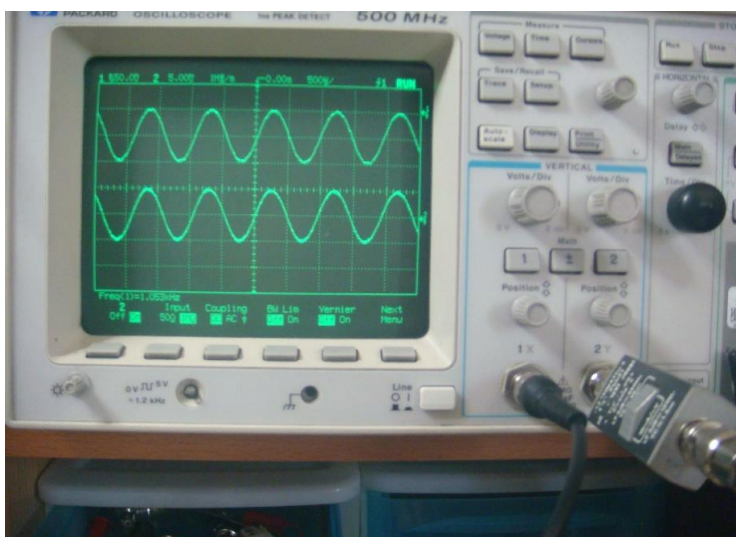
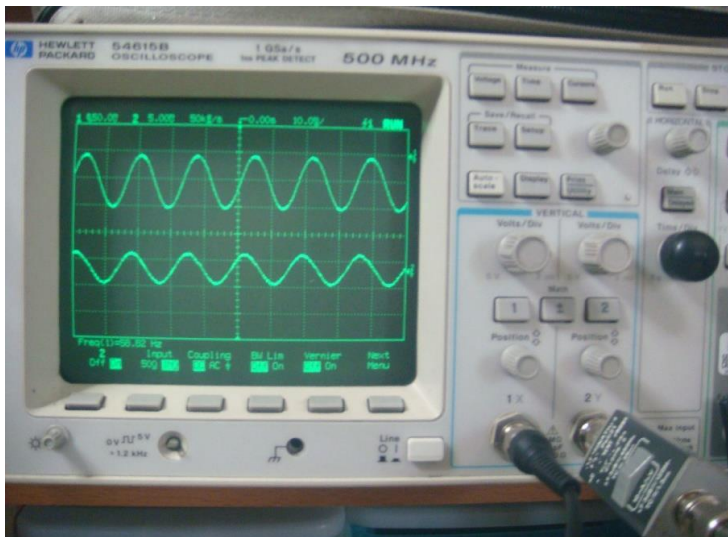
100Hzでは両波形の差がよく出る(CP-06が正常)



逆のHFではP6012が正常に表示

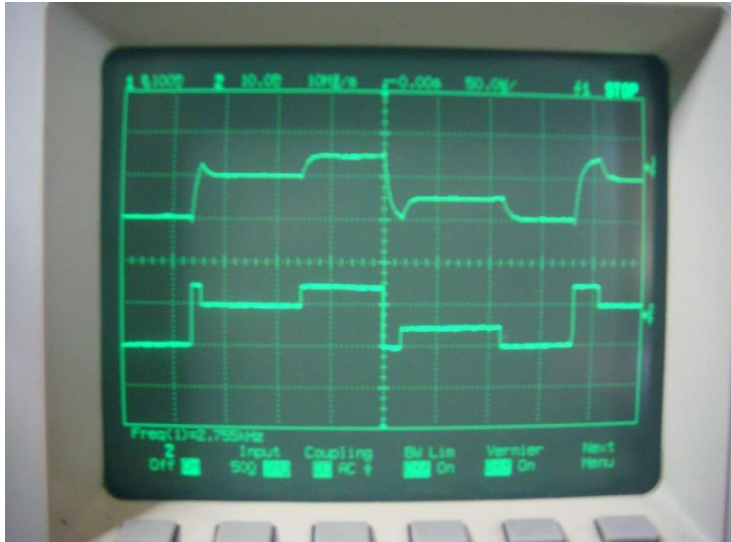


サイン波では過渡特性はゲイン/phaseの差でしか出ない(50Hz入力) ある程度HF(1KHz)では両方共同じ表示



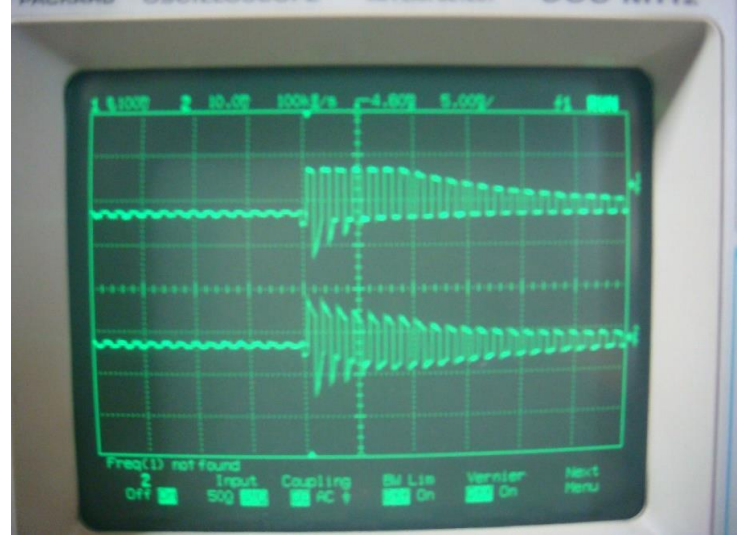


複合信号:CP-06では小さい狭いパルスは変形している

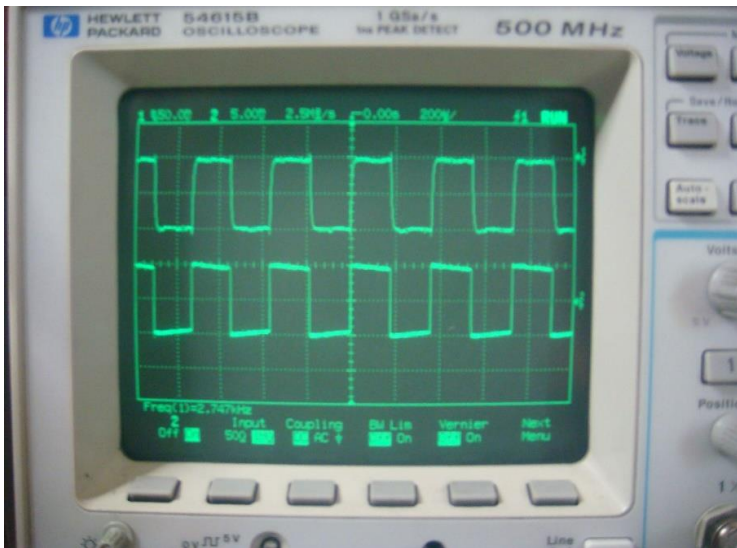


2KHz方形波:エッジ部の丸みの違いが出る

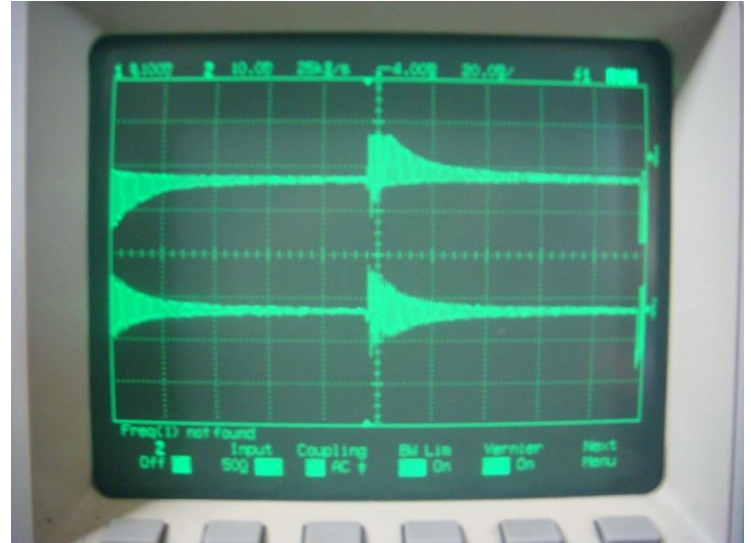
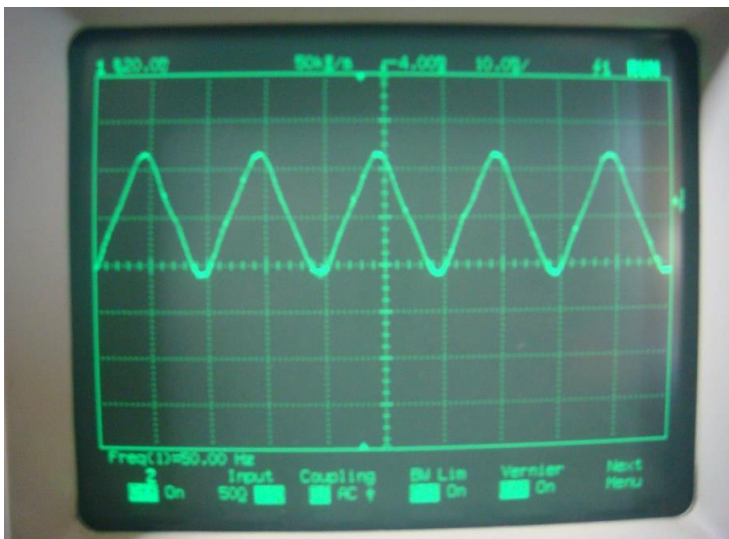
LFのバースト信号CP-06が正常



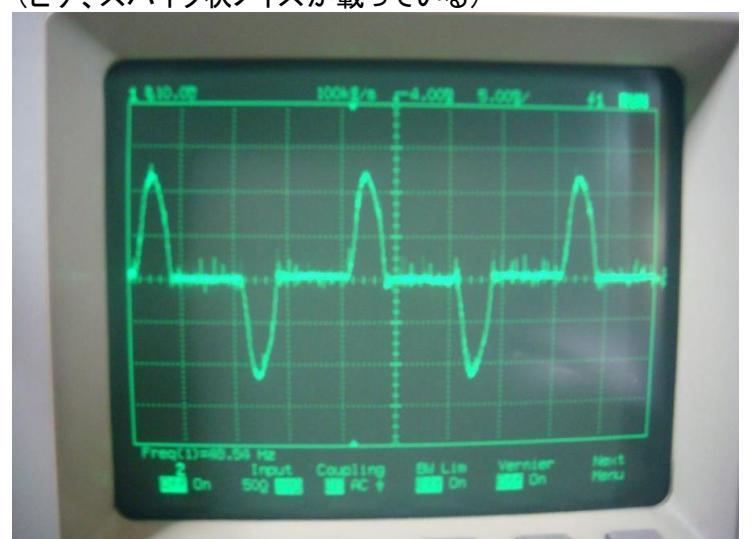
バースト波形の表示



50Hz 400mAp-pの表示、4Aレンジで



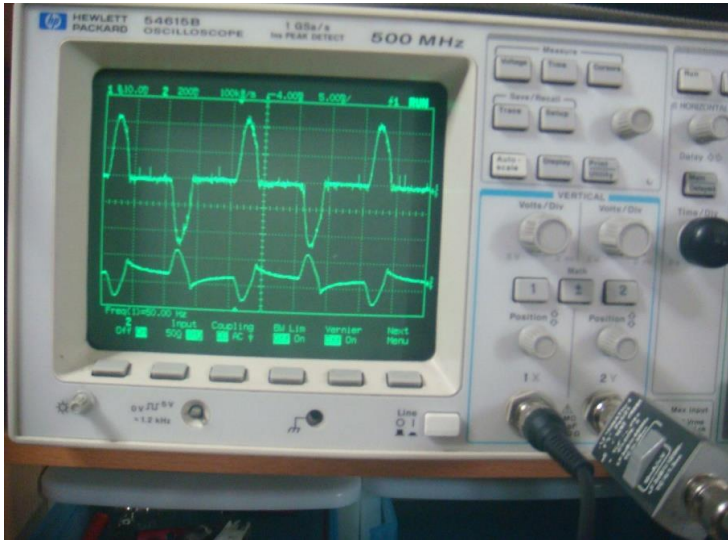
40AレンジはオシロのV/divを低感度にすべき  
高感度(10mV/divなど)では内部制御信号が現れる  
(ヒゲ、スパイク状ノイズが載っている)



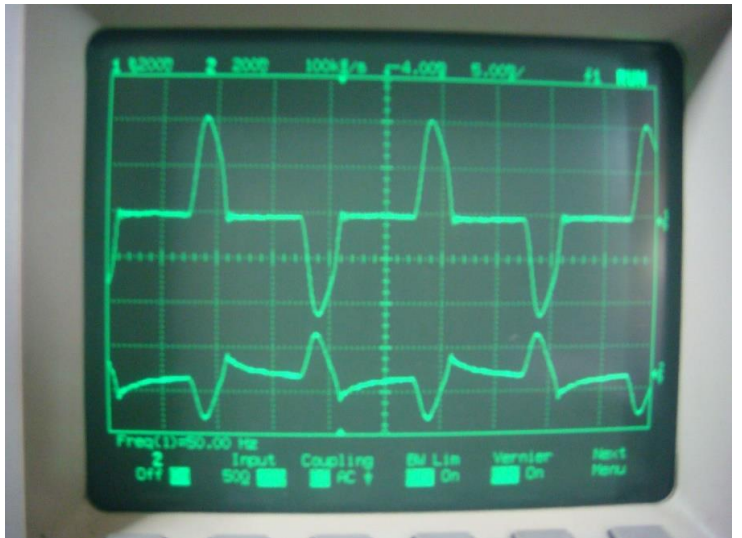
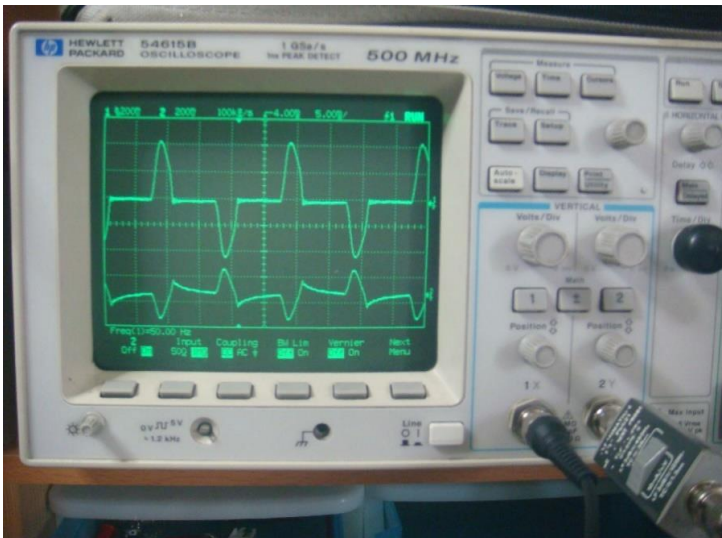


Cp06は正常に見える  
P6021(下)はLFが歪み、DC Levelも変形  
(P6021は+/-の入力が逆)

高電流の計測時は、40Aや4Aモードを使用。但し  
Volt/divを100mV/div以下(200mV・・・1V/div、2V/div)にする



CP-06、40Aモード、200mV/divでノイズのない表示になる



SIN波 LF(50Hz)でのゲイン差あり

1KHzではほぼ同じ表示

